

## 令和6年度地域貢献プロジェクト事業報告書

キャンパス名 函館校  
代表者氏名 石森 広美

プロジェクト名	多言語・複言語教育を踏まえた外国語活動と異文化理解教育の展開
プロジェクトの概要	<p>グローバル化に進展に伴い、多文化共生の重要性や多様性の尊重が叫ばれるなかで、外国語教育において多言語・複言語教育が注目を集めている。小学校においては、2020年度より3、4年生において外国語活動の必修化、5、6年生において外国語の教科化が始まり、外国語教育の充実が図れているが、「外国語」＝「英語」という実情であり、児童が英語以外のことばに触れる機会はほとんどない。しかし、世界には6000を超える言語が存在し、それぞれに豊かな文化を包含している。道南地域を含む北海道地域においても、英語を母国語とする人々より、中国語、ベトナム語、ネパール語、アラビア語、等、様々なことばを話す人々が往来し、また居住している。様々なことばにふれることで、児童は世界を知ることへの興味をもち、様々なことばを話す様々な人々、そしてその人々のもつ文化を認識し、尊重しようとする気持ちが生まれる。本プロジェクトでは、未来を生きる子どもたちが英語以外のことばに遊びを通してふれることによって、寛容の精神や多様な文化と共に生きようとするグローバルマインドを涵養することを目指した。</p> <p>本地域貢献推進プロジェクトでは、国際公用語として汎用性の高い英語のみならず、世界で最も話す人が多い中国語の他、スペイン語、あるいはアラビア語等、使用者が多い外国語を含め、様々なことばを使った楽しい活動を展開し、児童の新たな気づきや外国語の楽しさを喚起することを目指して展開された。「学習」「勉強」ではなく、あくまでも楽しみながら「体験」することによって、それぞれが「気づく」というプロセスを大切にしたい。</p> <p>本プロジェクトの実施により、従来の外国語活動を多文化共生時代の国際理解教育の視点から捉え直し、他者尊重、多様性の認識、異文化理解への肯定的な態度の育成を目指す新しい外国語活動を提案することができた。</p> <p>活動参加者 地域教育専攻 英語教育・国際理解教育研究室 石森広美 石森ゼミ学生有志（松山聖奈・菅奏・山下涼風・佐藤憧佳ほか） 石森ゼミ所属教員研修留学生（エジプト出身）Maye Saleh ほか留学生有志</p> <p>活動 ・週1程度 : 月曜・火曜いずれかに多言語・多文化の学習 多言語・複言語の外国語活動の指導案作成、教材の作成 ・後期に5回程度、道内小学校、学童クラブ等への出前授業 ・実践後の児童・教員からアンケートによるデータ収集</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による活動の振り返り</li> <li>・データ蓄積・分析、活動案の修正</li> </ul>
<p>地域・学校・子ども等に還元した成果</p>	<p>本プロジェクト「多言語・複言語教育を踏まえた外国語活動と異文化理解教育の展開」として、道南の小学生を対象に、出前授業を実施した。</p> <p>&lt;実施の実績&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知内町立知内小学校6年生（2024年10月10日）</li> <li>2. 北星小学校学童保育（こぼとクラブ）（2024年11月16日）</li> <li>3. 駒場小学校学童保育（乃木ぼうけんクラブ）（2024年11月25日）</li> <li>4. 鍛神小学校学童保育（じゃんぷ中道）</li> <li>5. 北斗市立浜分小学校4年生（2025年1月22日）</li> </ol> <p>英語、中国語、アラビア語、マレー語、スペイン語、タミル語、韓国語等を活用した多言語・複言語教育の要素を取り入れた外国語活動と異文化理解教育を実施した。</p> <p>この活動を通じて、英語以外の言語に触れることが、学校では経験できない貴重な活動であることが改めて確認された。複数の言語に触れることで、児童は異なる言語・文化との出会いに驚き、好奇心を高めるとともに、世界の多様性を実感し、言語や文化の違いを尊重する心の育成につながることができた。</p> <p>様々な外国語に触れることを通じて、児童は世界に心を開き、異なる国の人々の文化や考え方を知る機会を得た。特に、外国人との接触・交流に対する抵抗感が低減されたことが、観察だけではなく、アンケート・振り返りを通じて、明らかになった。</p> <p>また、異文化理解教育と併せて多言語・複言語教育を展開することにより、児童だけでなく、教員や指導者といった周囲の大人にも同様の波及効果があり、活動の意義を理解していただくことができた。</p> <p>児童は独特の音や響きの面白さを体験し、新たな異文化との出会いに対する興味を深める様子が見られ、その結果、より広い世界を知りたいという異文化理解への目覚めが促された可能性が示唆される。英語以外の外国語に触れることを通じて、改めて、英語学習への新たな動機付けにつながる児童も多く見られた。</p> <p>総括として、本プロジェクトは、多文化共生社会に生きる市民の育成に貢献し、言語や文化の多様性を尊重する意識を高める有益な取り組みとなった。</p>
<p>学生資質向上・教職資質向上のために果たした成果</p>	<p>小学校教師を志望する地域教育の学生が、自分たちも経験したことのない多言語・複言語の外国語活動の教材を作成する過程において、文献研究や意見交換を通してアイデアを共有し、思案し、視野を広げることができた。留学生からの知見を得ながら、活動集を製作し、指導案を含めた活動のパッケージが出来上がったことは、大きな成果である。</p> <p>実際に小学校等に出向き、教師らが見守る中で実践を行い、児童や大人からのフィードバックを得て振り返るプロセスは、教師の授業構想力・実践力、そして教職資質の向上に大きく寄与したと考えられる。多言語・多文化の尊重や多文化共生教育に向けた努力の必要性は、理念的</p>

	<p>に理解していたとしても、それを実際に教育現場でどのように具現化するのには理解が及びにくいなか、本プロジェクトによって、学生はその一つの手法を手に入れ、実践知を獲得できた。また、児童や教員のフィードバックから、学生自身が自信を身に付け、将来の教職において活かされる経験を獲得することができた。もちろん、学生自身の異文化理解が深まる効果もあった。総括すれば、グローバル時代の教員の資質能力の育成に、確かな成果があったといえる。</p>
<p>キャンパス及び大学への貢献</p>	<p>函館キャンパスは、国際地域学科を設置しており、「国際的な視野と教育マインドを持って社会で活躍できる人材」の育成を掲げている。</p> <p>本地域貢献プロジェクトが目指す活動は、多言語・複言語の導入によって、世界が豊かで多様なことばとそれに付随する多様な文化に満ちているという多様性理解と尊重の心を地域に育み、地域の多文化化や共生、豊かな街づくりを担う子どもたちや市民の育成（地域貢献）に寄与するものである。</p> <p>また、本活動の展開によって、地域の教育関係者からの信頼を集め、教育内容に関心をもっていただけたことで、大学（キャンパス）の価値を高めることにも貢献できたと考える。児童のなかには、「将来、教育大学に進学したい」と話す子どももおり、長期的にはキャリア教育の機能も果たすものである。</p> <p>（一活動の成果報告は大学のHPにも掲載されており、また北海道通信によって広く道内に発信された）</p> <p><a href="https://www.hokkyodai.ac.jp/info_area/hak/detail/291.html">https://www.hokkyodai.ac.jp/info_area/hak/detail/291.html</a></p>

※プロジェクトに関係する資料がある場合は、併せて提出してください。

（\*北海道通信、活動ワークシート例）



# 世界の言葉でこんにちは

アッサラーム イスミー  
السلام على يك  
إسمي

マアッサラーマ  
مَعَ السَّلَامَةِ



こんにちはの言葉を分解すると「あなたの上に平安あれ」という相手の平和や安泰を願うイスラム教の言葉になるよ

ナマステ メラ ナーム (名前) へ  
नमस्ते मेरा नाम  
है


ナマステ  
नमस्ते!



インドの公用語はヒンディー語と英語だけど実際はもっと話されている言葉があるから、インドの紙幣はなんと14の言葉が書かれているよ

ニーハオ！ウオジアオ  
你好！我叫  
.


ザイジエン  
再见



台湾の中国語の特徴は語尾が優しく、ゆるーいこと！日本語の「ね」や「だよ」のような「啊 (a)」「啦 (la)」を語尾につけることが多いからやさしい雰囲気になるよ

ニーハオ！ウオジアオ  
你好！我叫  
.

ザイジエン  
再见



若者同士のあいさつは、ハローやハイって言う人が多いよ！小学校からたくさん勉強するからそのまま使いたい人が多いんだって

スラマツ トゥンガハリ！ナマサヤ  
Selamat tengahari! Nama saya  
.

スラマツ ティンガル  
Selamat tinggal



"Selamat"は単体だと「おめでとう」「Selamat(おめでとう) tengahari(正午)」のようにSelamatと時間帯を表す言葉を組み合わせるだけで挨拶できるから覚えやすいね

○メモ



---

---

---

---

---

# 学童クラブ「じゃんぷ中道」多言語多文化・異文化理解

## 活動案

日時 2024年12月10日(月)

対象児童 小学1.2.3.4年生 計20名

### 1. タイムスケジュール

- 16:30-16:35 グループ編成・自己紹介
- 16:35-16:45 ルール説明
- 16:45-17:00 「世界のお店におつかいに行こう！」(3分×2セット)
- 17:00-17:10 ルール説明 ※王様じゃんけんをする
- 17:10-17:25 「ドン!じゃんけん！」(4セット)
- 17:25-17:30 結果発表・締め言葉

### 2. 活動紹介

○「世界のお店におつかいに行こう！」

ねらい～シンガポールは、様々な文化の町を持ち、多様な民族が共存して暮らしている国であることを知り、世界の食べ物の発音に慣れ親しむ。

#### 【ルール】

- ① 4チームに分かれて、スタートラインに立つ。
- ② 「START」の合図で、床にあるおつかいリストを1枚取る。
- ③ リストにある食べ物のお店を探し、食べ物を買う。

店員：Hello.

小学生：Hello.

店員：Would you like to order?

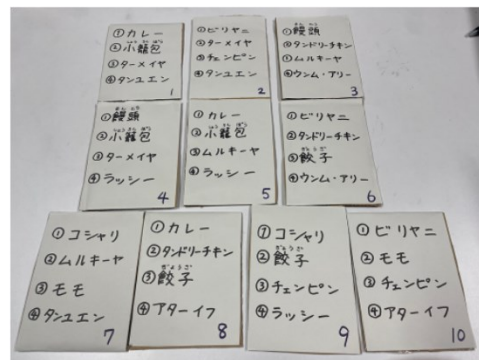
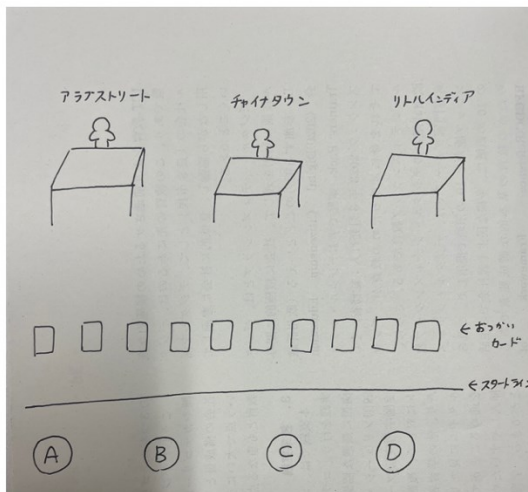
- ④ おつかいリストにある4つの食べ物カードが揃ったら、ゴールする

※参考資料

・各ブースのイメージ



・配置図とおつかいカード



○「ドン！じゃんけん！」

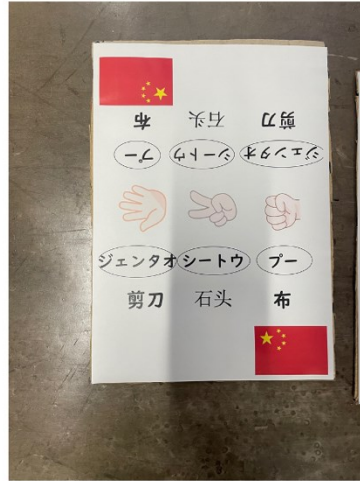
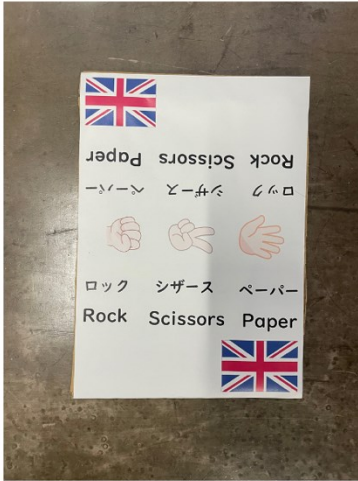
ねらい: 公用語が複数ある国があることを知り、世界のじゃんけんに慣れ親しむ。

【ルール】

- ① 音楽に合わせてマスを進む
- ② 止まったマスに書かれているじゃんけんをする
- ③ 相手の陣地に先に辿り着いたチームが勝ち

※参考資料

・各じゃんけんマス(英語・中国語・マレー語)



・全体イメージ

